

## 平均余命と加重障害保有割合（WDP）に基づく都道府県の 2次元分類と地域特性の比較検討

栗盛須雅子<sup>\*,2\*</sup> フクダ ヨシハル<sup>3\*</sup> オオタ ヒトシ<sup>\*</sup>

**目的** 平均余命と加重障害保有割合（以下、WDP）に基づいて都道府県を分類し、地域保健医療福祉指標を用いてグループの地域特性を明らかにすることを目的とした。

**方法** WDPは介護保険統計と効用値を用いて算出した。65歳平均余命と65～89歳年齢調整WDPに関して階層的クラスタ分析を行い、各クラスタと地域保健医療福祉指標との一元配置分散分析とGames-Howell法による多重比較を行った。その後、クラスタ間の変数の平均値の差からグループの特性を比較検討した。

**結果** 4つのクラスタ解を採用し、各グループは65歳平均余命と65歳以上年齢調整WDPの平均値に基づいて、長余命低障害群、長余命高障害群、短余命低障害群、短余命高障害群と呼ぶこととした。男性は、長余命高障害群は老人医療費と介護保険給付額、および医師数が短余命低障害群より有意に高かった（順に、 $P<.01$ ,  $P<.05$ ,  $P<.01$ ）。また、長余命高障害群は、心疾患死亡率と脳血管疾患死亡率が短余命低障害群より有意に低かった（順に、 $P<.01$ ,  $P<.001$ ）。女性は、長余命高障害群は老人医療費と介護保険給付額が短余命低障害群より有意に高かった（それぞれ、 $P<.05$ ）。また、長余命低障害群は、悪性新生物と心疾患死亡率が短余命高障害群より有意に低かった（順に、 $P<.05$ ,  $P<.01$ ）。

**結論** 都道府県を同じような地域特性をもつグループに分類し、他の自治体と比較検討し、グループの地域特性を明らかにすることは、地域の現状の客観的把握、施策の目標の設定、客観的な施策の評価に役立ち、意義があると考えた。

**Key words**：平均余命，加重障害保有割合，地域保健医療福祉指標，地域特性，2次元分類

\* 茨城県立健康プラザ

<sup>2\*</sup> 首都大学東京大学院都市環境科学研究科

<sup>3\*</sup> 山口大学医学部地域医療学

連絡先：〒310-0852 茨城県水戸市笠原町 993-2  
茨城県健康プラザ 栗盛須雅子